



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 伸子
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 050-1791-2014
 四半期報告書提出予定日 2023年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	34,411	7.5	1,837	20.1	2,100	19.7	1,714	48.0
2022年3月期第3四半期	31,999	—	1,530	68.9	1,754	80.9	1,158	61.4

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,775百万円(53.6%) 2022年3月期第3四半期 1,155百万円(50.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	131.01	—
2022年3月期第3四半期	88.52	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期の売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	34,738	18,818	54.1
2022年3月期	29,422	17,392	59.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 18,784百万円 2022年3月期 17,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	43,000	2.0	1,650	△3.2	1,750	△15.7	1,150	△21.9
								87.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	13,086,200株	2022年3月期	13,086,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,919株	2022年3月期	1,800株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	13,084,386株	2022年3月期3Q	13,084,466株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、行動制限の緩和等により経済活動の正常化への動きがみられた一方、長期化するロシア・ウクライナ情勢や為替相場の影響により依然として先行き不透明な状況が続いております。

菓子・食品業界におきましても、原材料費やエネルギーコストの高騰により物価が上昇する中、消費者の生活意識の変化もあって、厳しい市場環境は続くものと想定されます。

このような状況のもと、本年当社グループは創業125年 会社設立75周年を迎えました。また、中期3カ年計画「Be Resilient 2023 ～新しい時代をしなやかに生きる～」の2年目にあたり目標達成に向けた重要な年度となります。2022年度は何事にも果敢に挑戦する「進取」をテーマとし、サステナビリティの高い企業体質構築と収益構造の変革に向け活動しております。

井村屋株式会社ではグループ全体の成長戦略の一環として、三重県津市の中勢北部サイエンスシティ内に市場競争力向上を目指した新工場「あのとFACTORY」の建設を進めており、2023年3月竣工を予定しております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、井村屋株式会社において冷菓カテゴリーが順調に推移するとともに冬物商品の主力となる「肉まん・あんまん」などの点心・デリカカテゴリーの売上が伸長し、全カテゴリーで売上が増加しました。米国で事業展開しているIMURAYA USA, INC.（以下「IMURAYA USA」と記載）において日本から輸入した井村屋商品の販売が大きく伸長し、また、井村屋フーズ株式会社においてはOEM受託商品の売上が増加しました。

その結果、連結売上高は、344億11百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

損益面では、原材料価格、エネルギーコストが高騰する中、生産性向上活動の継続によりコストの抑制を図ったことで営業利益が増加しました。また、海外取引における為替差益や、建設中の井村屋株式会社の新工場「あのとFACTORY」の輸出促進に関する補助金収入により四半期純利益も増加しました。

以上の結果、営業利益は18億37百万円（前年同期比20.1%増）、経常利益は21億円（同19.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億14百万円（同48.0%増）となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益において第3四半期連結累計期間で過去最高の業績となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では上期のスタート時より「肉まん・あんまん」などの点心・デリカカテゴリーの売上が伸長するとともに、菓子カテゴリーや食品カテゴリーの売上が順調に推移し、全カテゴリーで前年同期から売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。また、IMURAYA USAでは日本からの輸入商品の販売が大きく伸長しました。

以上の結果、流通事業の売上高は309億29百万円（前年同期比8.1%増）となり、セグメント利益は25億55百万円（同17.5%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

（菓子カテゴリー）

災害用備蓄商品として評価の高い「えいようかん」や片手で食べられる「スポーツようかん」の売上が伸長しました。冷凍和菓子では季節限定商品「4コ入 よもぎ草餅（つぶあん）」、「4コ入 黒ごまクリーム大福」が順調に推移し、売上増加に貢献しました。また、IMURAYA USAでは日本から輸入したカステラの売上が大きく増加しました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は52億73百万円（前年同期比26.0%増）となりました。

(食品カテゴリー)

今年発売60周年を迎えた「ゆであずき」や「お赤飯の素」が堅調に推移し、新商品の「かけるご褒美 あん×バター」「日本酒香るあんこ」「ラム酒香るあんこ」も好評をいただいております。冷凍食品では「4個入冷凍パックまん」シリーズや「ゴールドまん」シリーズが好調に推移し、「井村屋謹製カレーぱん」やコレステロールゼロの「2コ入 大豆ミートまん」も売上を伸ばしました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、高粘性タンパク入りゼリーや固形入りゼリーの生産技術を活用したスパウチ商品の受託加工が引き続き堅調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は56億61百万円（前年同期比8.9%増）となりました。

(デリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「美し豆腐」が順調に推移し、長期保存が可能な「大豆屋和蔵 大豆ッ子」の売上が大きく伸びました。また、「チルドパックまん」では「3コ入チルドまん」シリーズの売上が増加しました。

以上の結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は15億65百万円（前年同期比17.4%増）となりました。

(冷菓カテゴリー)

「あずきバー」シリーズが順調に推移しました。「あずきバー」が2023年に発売50周年を迎えることを記念して、希少な白小豆を使用し、数量限定で発売した「白あずきバー」が好評を得ました。今年で発売10周年を迎えた「やわもちアイス」シリーズでは、限定商品「やわもちアイス 焦がしみたらし」、「やわもちアイス パフェいちご大福味」が順調に推移しました。IMURAYA USAでは「やわもちアイス」や「あずきバー」など日本からの輸入商品の売上が増加しました。また、マレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD. (IMM) では「あずきバー」シリーズの特徴を生かしつつ、現地向けに対応した「AZUKI BAR (RED BEAN) ・ (MATCHA) ・ (MILK)」に続き、アイスクリームを餅生地で包んだ新商品「Mochi Mochi (VANILLA & MANGO) ・ (CHOCOLATE & CHOCOLATE) ・ (MATCHA & RED BEAN)」を発売し、販路拡大に取り組みました。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は120億38百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

(点心・デリカカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカカテゴリーは、コンビニエンスストアにおける即食性のある商品が売上を伸ばしました。また、販売店様と共同で企画した新商品も好評をいただきました。

以上の結果、点心・デリカカテゴリーの売上高は59億29百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

(スイーツカテゴリー)

「アンナミラーズ」は2022年8月31日に40年間ご愛顧いただいた「高輪店」を閉店しましたが、催事販売として12月にJR高円寺駅1F改札外「コレもう食べた？」へ期間限定で出店しました。アップルパイやチェリーパイが好評を得て、売上増加に貢献しました。今後も「アンナミラーズ」ブランドの価値を守り、継続して商品をお買い求めいただけるよう、企画や機会を創出してまいります。

「La maison JOUVAUD (ラ・メゾン・ジュヴォー)」では「KITTE名古屋店」や「ジェイアール京都伊勢丹店」の売上が増加し、上質でスタイリッシュな居住地として注目される「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」2階に出店した「虎ノ門ヒルズ店」においても「カヌレ」や「ロカイユ」が好評をいただき、集客数も着実に増加しております。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は3億73百万円（前年同期比26.4%増）となりました。

(VISON (ヴィソン) カテゴリー)

国内新規事業として2年目を迎えるVISONカテゴリーでは、三重県多気町の大型商業リゾート施設「VISON (ヴィソン)」内にて三重県の水と酒米、酵母を使用し、テロワール*に根差した日本酒「福和蔵 (ふくわぐら)」の製造・販売と、「菓子舗井村屋」として「酒々 (ささ) まんじゅう 芳醸菓」など特色のある商品を販売しており、飲食スペースでは「ぜんざい」や「和風モンブランパフェ」が好評をいただき、売上が共に伸びました。「福和蔵」においては、「福和蔵 純米大吟醸」が三重県新酒品評会での優等賞受賞に続き、全国新酒鑑評会においても入賞しました。また、「福和蔵 純米酒」も全国燗酒コンテスト2022において金賞を受賞し、高い評価をいただいております。

以上の結果、VISON (ヴィソン) カテゴリーの売上高は87百万円 (前年同期比58.7%増) となりました。

*テロワールはワイン等の生産に関わる生育地の「土地の要素」「気候の要素」「人的要素」を総合した生産環境のことを指し、味覚を決定する重要な要素とされています。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、家庭内食向けの調味料と機能性素材のOEMが堅調に推移しました。中国での調味料事業は、新型コロナウイルス感染対策強化の影響により、中国国内の売上が減少しましたが、ゼロコロナ政策が撤廃され、今後の展開には期待が持てる段階に入ります。

以上の結果、調味料事業の売上高は33億17百万円 (前年同期比2.3%増) となりました。セグメント利益は5億61百万円 (前年同期比3.5%増) となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社において井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、感染防止対策の徹底とお客様へのサービス向上に取り組みました。「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai (ワイワイ)」においては、「アップルパイ」「チェリーパイ」の取扱いを開始し、好評を得ております。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億63百万円 (前年同期比4.2%増) となりました。セグメント利益は20百万円 (同346.3%増) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は347億38百万円となり、前連結会計年度末に比べ53億16百万円の増加となりました。流動資産は、冬物商品の販売増に伴う売掛金の増加などにより、46億39百万円増の153億78百万円となりました。固定資産は、新工場建設に伴う建設仮勘定の増加などにより、6億76百万円増の193億59百万円となりました。

負債は159億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億89百万円の増加となりました。流動負債は、未払金や冬物商品の生産に連動した買掛金の増加などにより、38億2百万円増の141億80百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、87百万円増の17億38百万円となりました。

純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、14億26百万円増の188億18百万円となりました。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末59.0%から54.1%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、「おしるこ」や「ぜんざい」などの冬物商品に加え、冷凍商品が好調に推移しておりますが、不安定な世界情勢を背景に原材料価格や物流コストの上昇が続いており、消費動向も依然として先行き不透明な状況にあることを慎重に考慮し、2022年5月12日付の「2022年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,069,855	980,524
売掛金	5,188,868	8,577,322
商品及び製品	2,471,511	2,965,245
仕掛品	273,492	246,240
原材料及び貯蔵品	927,417	1,142,281
その他	809,299	1,468,568
貸倒引当金	△1,201	△1,499
流動資産合計	10,739,243	15,378,683
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,399,475	18,617,304
減価償却累計額	△10,588,597	△11,063,051
建物及び構築物(純額)	7,810,878	7,554,253
機械装置及び運搬具	17,179,394	17,649,420
減価償却累計額	△14,053,958	△14,614,418
機械装置及び運搬具(純額)	3,125,436	3,035,002
土地	4,225,372	4,234,328
その他	2,228,472	2,916,923
減価償却累計額	△1,578,766	△1,385,423
その他(純額)	649,705	1,531,499
有形固定資産合計	15,811,391	16,355,083
無形固定資産		
リース資産	49,842	106,452
その他	70,116	49,661
無形固定資産合計	119,959	156,114
投資その他の資産		
投資有価証券	1,367,050	1,450,733
退職給付に係る資産	889,219	893,261
その他	520,694	529,850
貸倒引当金	△25,061	△25,061
投資その他の資産合計	2,751,903	2,848,785
固定資産合計	18,683,254	19,359,983
資産合計	29,422,498	34,738,667

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,615,246	3,577,390
電子記録債務	1,678,485	2,416,456
短期借入金	1,400,000	2,550,000
1年内返済予定の長期借入金	267,228	150,869
未払金	2,715,407	3,754,247
未払法人税等	488,065	572,846
賞与引当金	527,959	292,827
その他	685,955	866,298
流動負債合計	10,378,347	14,180,936
固定負債		
長期借入金	100,536	25,737
執行役員退職慰労引当金	39,864	50,394
退職給付に係る負債	36,079	37,191
資産除去債務	135,246	136,105
その他	1,340,232	1,489,539
固定負債合計	1,651,958	1,738,967
負債合計	12,030,305	15,919,903
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,810,519
利益剰余金	8,580,110	9,944,156
自己株式	△3,952	△4,221
株主資本合計	14,963,217	16,326,993
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,151	179,777
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	13,835	63,106
退職給付に係る調整累計額	336,031	284,114
その他の包括利益累計額合計	2,384,438	2,457,417
非支配株主持分	44,536	34,351
純資産合計	17,392,192	18,818,763
負債純資産合計	29,422,498	34,738,667

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	31,999,415	34,411,411
売上原価	20,605,858	22,202,319
売上総利益	11,393,556	12,209,092
販売費及び一般管理費	9,862,962	10,371,295
営業利益	1,530,594	1,837,797
営業外収益		
受取配当金	57,534	48,339
受取家賃	29,259	26,166
為替差益	62,040	144,957
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	53,477	7,899
その他	47,806	57,431
営業外収益合計	250,117	284,794
営業外費用		
支払利息	20,906	15,152
その他	5,272	7,256
営業外費用合計	26,178	22,408
経常利益	1,754,533	2,100,182
特別利益		
投資有価証券売却益	-	17,093
補助金収入	4,227	443,372
受取補償金	44,672	-
その他	8,206	1,618
特別利益合計	57,106	462,084
特別損失		
固定資産除却損	6,142	12,733
棚卸資産処分損	44,307	-
その他	2,332	2,615
特別損失合計	52,782	15,348
税金等調整前四半期純利益	1,758,857	2,546,918
法人税、住民税及び事業税	538,253	866,435
法人税等調整額	52,637	△23,679
法人税等合計	590,891	842,755
四半期純利益	1,167,966	1,704,162
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9,666	△10,003
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,158,299	1,714,166

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,167,966	1,704,162
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,746	75,625
為替換算調整勘定	29,473	47,281
退職給付に係る調整額	△57,236	△51,916
その他の包括利益合計	△12,016	70,989
四半期包括利益	1,155,949	1,775,152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,143,046	1,782,906
非支配株主に係る四半期包括利益	12,903	△7,753

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,599,781	3,242,258	31,842,040	157,374	31,999,415
セグメント間の内部売上高 又は振替高	50,940	208,481	259,421	10,140	269,562
計	28,650,722	3,450,740	32,101,462	167,515	32,268,977
セグメント利益	2,175,403	542,384	2,717,788	4,568	2,722,356

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,717,788
「その他」の区分の利益	4,568
全社費用(注)	△1,191,762
四半期連結損益計算書の営業利益	1,530,594

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	30,929,983	3,317,448	34,247,431	163,979	34,411,411
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54,782	237,915	292,697	11,630	304,328
計	30,984,765	3,555,364	34,540,129	175,609	34,715,739
セグメント利益	2,555,866	561,121	3,116,987	20,387	3,137,375

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	3,116,987
「その他」の区分の利益	20,387
全社費用(注)	△1,299,578
四半期連結損益計算書の営業利益	1,837,797

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。